

レ待ち、そりや不可ん、毆つてどうするのや、此奴等二人は洒落にしたのに、怒る奴があるか、向ふが洒落なら、此方も洒落で仕返しをしてやれ、その方が好え」「そんなら、洒落で仕返しと云ふと何うしますのんや」「それわ 此奴等二人が寝て居るよつてに、其間に馬の糞を拾ふて来て、そうして此奴等呼び起すと、酔ふた後で寝呆けて起きよる、そこで馬の糞を突出して、オイあんな無茶しいなや、サアばた餅や、これ喰い、あいつの口へ、馬の糞を捻じ込んでやるのんや」「成る程 コレハ面白いなア、そんなら馬の糞を拾いに行きまひよ、あんたも一緒に來とくなはれ」「ヨシ俺も一緒に行ってやる、サア來い」熊五郎と彌太はんと萬さんと、三人連れで馬の糞を拾ひに出掛けました、スルと押入の中に居た、米やんの方が、目を覺して居たので「オイ、八やん、起きんか」「ア、くア、……チンモンくモン」「阿呆やなア、寝呆けてチンモンくやつてる、オイ、確かりせい」「エイ何んや」「何んやヤない、お前がグウく軒をかいて居るよつてに、とうどう悟られたがな」「エードうしたのや」「どうしたと云ふて、腦天の熊五郎と、彌太公と一緒に歸つて來よつたのや、今三人連れで、馬の糞を拾ひに行たで」「馬の糞を拾ふて來てどうするのやろウ」「お前と俺に喰はすのやと」「私し馬の糞はキライや」「誰れかて虫がすかん」「そんなら今のうちに逃げて歸らうか」「チョツと待ち、こいつ逃げて歸つては面白いよつてに、熊五郎も一緒に、最う一遍吃驚さしてやろうやないか」「何んな事をするのや」「サア 今考へて居るのや、まあ一服シイ、何んぞ無いか知らん」

と兩人は押入の中から出て來て、火鉢の前へ座つて考へて居ると、表へさして「按摩ー、按摩ー、鍼の療治」ピーピーと笛を吹いてやつて來た「オイ 八ちやん化物に、佳え物が來た、按摩の頭鐵あ奴を一ツ化物のネタに使ふてやろ、オーイ頭鐵、オイ頭鐵」「ヘイ お呼びになりましたか……ア、彌太はんとコだすか、お聲が違ひますなア」「彌太しうは今留守やが、マアこつちへ這入り」「ヘエ 大きに、ア、八ツさんに、米はんだすな。ハイ今晚は、按摩を仕ますのか」「イヤ 按摩やないね、實はなア、お前の身體を三十分間ほど 借りたいねが、お前仕事を仕たら何んぼ程になる」「マア三十錢だすなア、しかし私の身體を雇うて何しはりますのんや」「ウムー實は化物をこしらへて彌太公をビツクリさしてやるのや、恰度お前の頭が坊主で、目玉が飛んで出て居る、お前を頭にして椽側の敷居を枕に寝て貰ふのや、その次へ八ちやんが寝る、足の方へ私が寝る、三人がズウツと寝るのや、それで繼ぎ目に蒲團を着せて置くのや、さうすると、彌太公が歸ると、闇くらがりになつて居るから、手探りで上へ揚らうとすると、上り口の所に俺の足がある、そこから順々に探つて行く、取合には蒲團がのせてあつて、解らんやろオ、仕舞に椽側まで行くと、お前の頭や、撫ぜて見ると坊主頭や、高入道やと思ふて、ビツクリする、そこでお前へが目をむいて、彌太はんカモウカといふと、腰を抜かしよるやろう」「イヤこれは面白い私しも、こんな事をするのは大好きでやす、一ツ遣りまヒョウ」「頭鐵お前やつて呉れるか、オイ 八やんお前三十錢無いか」「私し無い」「そんなら其所